

山形大実習生受け入れ病院

協定締結2増14に

山形大医学部の臨床実習生を地域の中核病院で受け入れる「県広域連携臨床実習協定書」の締結式が20日、山形市の同学部で行われた。3年目となる協定には

した医学教育体制を整え、医師定着につなげるのが狙いで、学生も現場で豊富な症例を経験できるメリットがある。

識、経験を積んだ後、5、6年次に協定先の病院で指導医師立ち会いの下で診療に携わる。今回は現在の5年生122人が対象で、学生1人につき2病院で実習する。期間は計8週間。

県立河北と東北中央が加わり、締結病院は県内全域の14病院に増えた。広域連携臨床実習は、県全体で充実

する前の臨床実習に臨む4年生を「スチューデントドクター」として認証。学生たちは付属病院内で臨床知

「山形方式・医師生涯サポートプログラム」の一環で、

2012年1月に同学部と3病院でスタート。13年は12病院に拡大し、学生の実習参加が希望制から必修に変更された。県は学生の交通費、宿泊費などを支援している。

合病院長は「卒前教育を担うことで、受け入れ病院にも誇りが生まれる」と語った。

締結式で、多田敏彦県立河北病院長は「医師育成に参加できることは喜ばしいが、同時に身が引き締まる思いだ」、田中靖久東北中央病院長は「責任の重さを感じている。実りある実習にしたい」とそれぞれあいさつ。山形大関連病院会長の栗谷義樹日本海総

県によると、今年3月に同学部を卒業し、県内の病院で臨床研修に臨むのは46人。医学部付属病院以外を選んだ21人のうち16人は、学生時代の広域連携臨床実習先を研修先としており「定着の効果が出てきている」（県健康福祉部）としている。

県立河北と東北中央の両病院以外に協定締結しているのは▽公立置賜総合▽日本海総合▽山形市立病院済生館▽県立中央▽県立新庄▽寒河江市立▽鶴岡市立▽内▽米沢市立▽三友堂▽篠田総合▽山形済生▽庄内余目一の各病院。